

水中遺跡無人探査機の実験について

1. 日時 平成 25 年 10 月 16・17 日（水・木）
2. 場所 長崎県松浦市鷹島町 史跡鷹島神崎遺跡及びその周辺
3. 協力 池田榮史（琉球大学教授・水中遺跡調査研究委員会委員）
松浦市教育委員会
（独）海洋研究開発機構 （独）九州国立博物館
（株）鶴見精機
4. 目的 水中無人探査機によって、水中遺跡の探査を行う。
 - ・人の潜水による危険性回避
 - ・長時間の作業が可能
 - ・費用的にも安価にできる
5. 方法 （株）鶴見精機が開発した水中無人探査機をご提供いただき、史跡鷹島神崎遺跡地内で確認された元寇沈船、及び史跡地外で確認されている近世（？）の沈船の現状確認を行う。
6. 探査実験地点
 - ① 史跡鷹島神崎遺跡地内の元寇沈船（10月16日午前）
水深：23m
対象：保護のため銅網を被せた状況の確認
 - ② 床浪沖（10月17日午前）
水深：48m
対象：近世？の沈船の状況確認
7. 探査実験結果
 - ① 史跡鷹島神崎遺跡地内の元寇沈船
 - 元寇沈船が銅網に覆われた状態は確認できた。
 - 元寇沈船の位置が当初から確認できていたため、対象物である元寇沈船の位置を容易に把握できたが、濁っており視界は 2m 程度。
 - ② 床浪沖の近世？の沈船
 - 魚群探知機で近世？の沈船の位置（真下）を確認。
 - 水中無人探査機は強い潮流に流された。
 - 水中無人探査機自身の位置が不明であること、濁って視界が悪いことから、沈船は確認できなかった。